

- (1) 総合計画改定に伴う団体ヒアリング結果
- (2) 子どもへのインタビュー結果

(1) 総合計画改定に伴う団体ヒアリング結果

1) ヒアリングの概要

ヒアリングの概要	各団体に対し、活動状況、復興の進捗状況に対する評価や今後の重点項目、将来像、まちづくりの課題、行政との連携方針等についてヒアリングを行い、要素を「まちづくりの将来像のポイント」として整理する。
実施時期	平成 27 年 3 月 6 日（金）～3 月 27 日（金）
対象者	町内 10 団体

2) ヒアリングの結果（まちづくりの将来像のポイント）

団体名	まちづくりの将来像のポイント
南三陸町復興推進ネットワーク	女性の働きやすいまちや子育てのしやすいまちを目標に、いろいろな人をつなぎ、町にあるものや人々の時間をうまく分け合いながら多様な事業が生み出されている。
南三陸町公民館	女性の働きやすいまち、高齢者の活躍できるまち、若者の起業できるまちを目標に、地域の人々をつなぎ、課題をうまく解決しながら、内外にその先進性を発信し、町の価値が高まっている。
宮城県漁協歌津支所	山川海がある立地を大事にしながら生産物や食、地域デザインを磨いてその価値を高めると共に、三陸道 IC 整備を活かし交流が盛んになっている。
南三陸町 P T A 連合会	学校と家庭、地域の連携により子育てのしやすい町になり、子供たちが地域の文化を学び、国内外との交流もある成長する町となっている。
南三陸町社会福祉協議会	地域密着型の生活サービスがあり、女性の働きやすいまち、子供が育てやすいまち、高齢者の活躍できるまちになっている。地域コミュニティが再生され、安心して暮らせる町となっている。
宮城県漁港志津川支所	近接する山川海の環境を守り、その資源を活かして町の価値を高めている。また、地域コミュニティの再生が図られ、三陸道 IC 整備を活かし、交流を活発にする中で、町の賑わいが生み出されている。
南三陸森林組合	近接する山川海の環境を守るとともに、その資源を活かして町の価値が高まっている。企業研修の場などとして滞在型の交流が発展し、まちの活性化が図られている。
南三陸町商工会	海と食資源を活かして町の産業の再興を図るとともに、事業を興しやすい町になる。居住地と商店街が離れるので、移動しやすいような交通が工夫されている。
南三陸農協志津川支店	近接する山川海の環境を守るとともに、その資源を活かし、エコタウンとして町の価値を高める。農地景観を活かして観光と連携し、6次産業化ができています。
南三陸町観光協会	町の資源や人のつながり・コミュニティを活かして地域が復興し、町外の学校や企業などと交流が活発となっている。また、町外から応援で来た人も定住できるまちになっている。

(2) 子どもへのインタビュー結果

1) インタビューの概要

インタビューの目的	総合計画の策定にあたり、今後のまちづくりの担い手となる子ども（小学校高学年～高校生）に対して、それぞれが持っている価値観や考え方、町に対する印象等をたずね、計画の内容を若い人の視点で確認するために活用する。
実施時期	平成27年7月13日（月）～7月24日（金）
対象者	町内の学校に通う小学校4年生～高校3年生 <内訳> ・志津川小学校：5名 ・伊里前小学校：5名 ・志津川中学校：6名 ・歌津中学校：6名 ・宮城県志津川高等学校：8名
インタビューの内容	以下①～③の内容をインタビュー形式で質問する。 ①町の良いところ ②町のよくないところ ③将来の町について

2) インタビューの結果（概要）

①町のよいところ

i) 海や山など自然が豊かで、食べ物がおいしい

小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・おいしい魚などがとれる。カゴ上げという魚を捕る仕掛けがある。 ・海がきれい。夏には泊浜近くの長須賀海岸で泳げる。 ・田束山など自然が豊か、いろいろな植物や動物がいる。 ・田束山、志津川小学校から見る景色がきれい。 ・新鮮な空気が吸える。ずっとこちらに住んでいるので、こちらの空気が良い。
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・海産物が有名でおいしい。 ・志津川中学校から見る山、川、海がきれい。 ・海で釣りをするのが好き。昔は海水浴もしたし、山や川でも遊んだ。 ・海で散歩をしたり走ったりするのが好き。 ・海を見ていると安心できる、元気が出る。 ・森林など身近な自然が豊かである。
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・海の幸があるし、山菜や季節のものもある。他の県から来た方が美味しいと言ってくれ、実際に美味しいと思っている。良いところというか、自慢だ。 ・季節の魚が食べられるのが良い。開口日にはいっぱい捕る。 ・中学校の頃から祖父と一緒に海に出て漁に連れて行ってもらった。 ・南三陸には海はかけがえのないものだと思う。 ・初日の出を荒島に見に行った時に、本当に海がきれいで自然が豊かでいいなと思った。 ・家が流されたため、しばらく海が怖いと思ったが、その後戻ってきて、震災前に海で遊んでいたことを思いだし、とても懐かしく思った。 ・海をずっと見ても飽きないという友達も多い。 ・小さい頃から遊ぶ場所が無い町だと思っていたが、海や川で遊んで触れあえたのが良かった。

ii) 人が優しい、人と人とのつながりが深い、助け合いの意識がある

小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・事件が少なく、穏やかに暮らせる。 ・子どもからお年寄りまで元気がよく、自ら進んで挨拶する。
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・町民が親切である。知らない人でも挨拶してくれる。 ・行事で手伝ってくれるなど、協力性が高い。 ・気軽に町の人に“おかえり”、“ただいま”と挨拶したり、話したりできる。
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・初対面でも他人ではない感じがする。 ・人付き合い、人の良さが特徴的だと思う。 ・人と人との繋がりが深く、町民の皆が温かみを持っている。 ・仮設暮らしになって地域が別々の方が集まったが、挨拶してもらえらるし、「疲れてないか？」と顔色も見てくれる。 ・山のものを探ってきて、海のものや物々交換する近所付き合いもある。 ・道案内をするなど、町に来てくれる方々に感謝して接している。 ・震災を通じて助け合うことが意識の中に潜り込んでいて、生活で困ったことがあった時に、何も言わなくても手を差し伸べてくれる。 ・知らない人が助けてくれるなど、人のために生きるということが、当たり前に出ている。 ・南三陸の人は別の人を引きつける力がある。 ・家族にその話をしなくても、その一週間後にはそのことが家族に伝わっている。 ・学校外での活動が新聞やテレビで紹介された時に、それを見たよと励ましてくれる。 ・場を盛り上げる人が多い。福興市で大人子ども関係なく一緒に乗ってくれる。震災があっても落ち込むのではなく、諦めずに盛り上がるところがすごい。

iii) 歴史や地域の資源があり、伝統をつないでくれる人がいる

小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・神割崎など、伝説がいっぱいある。 ・さんさん商店街がある。商店街ができて観光客が増え、町の人との関わりがより深まり、新たな友達もできた。商店街はものを揃えられるし、待ち合わせ場所にもなる。 ・福興市が月1回行われている。 ・にぎやかで新しいまちができる。
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・魚竜化石がとれる。 ・おいしん、まるあら（海産物）、たいしゅう等、昔からのお店がある。
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・子供達に南三陸の歴史を伝えてくれる人がいて、南三陸のことを絶やさない、伝統を繋いでくれる人がいる。 ・商店街では、キラキラ丼を提供するなど、町の良い特徴を生かそうとしているのが良い。

iv) その他

中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校・中学校・高校の連携がとれている。特に吹奏楽部は各校合同でバンドを組んで音楽祭へ出演するなど、仲が良い。
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・今は南三陸が好きだが、震災前には無かった感情である。震災前はこの町から出て行きたいと考えており、震災後に町外に引っ越したが、戻りたくなくなって戻ってきた。

②町のよくないところ

i) 買い物をするのが不便

小学生	<ul style="list-style-type: none">・お店が少ない。食料品などを買うのに不便。・スーパーがなく、佐沼まで行かなければならない。・学校で使うノートを買う店が無く不便だなと思う。
中学生	<ul style="list-style-type: none">・現在ある仮設商店は観光客向けの商品が中心であり、毎日の生活に役立つものが少ない。特に生鮮食品（生もの）を扱うお店がない。・文房具など必要なものをすぐに手に入れない。今でこそ最低限のものは揃うが、土日に必ず石巻等に行かなければならない状況は変わっていない。・病院や診療所が少ない。・コンビニが遠い。
高校生	<ul style="list-style-type: none">・震災前は町独特のお店があり、大人や子供の拠り所になっていたが、津波で流された。・毎週佐沼や気仙沼に行って買い込むので、町内で買える物も遠くに行った際に買うことになり、町内の店の売りに影響すると思う。

ii) 道路状況が悪い、道路が危険、交通の便が悪い

小学生	<ul style="list-style-type: none">・歌津大橋が無くなり、道路が渋滞したりする。・横断報道や街灯が少ない。夜になると暗くて前が見えない。・ダンプカーがいっぱい走っていて危険で、環境に悪い。・海の近くが砂利道になっており、雨が降ると車で行けなくなるので困る。
中学生	<ul style="list-style-type: none">・道路が舗装されておらず、狭い。自転車の荷物が落ちる。・自転車通学をする生徒もいるが、車が近くを走るので危ない。・工事車両が頻繁に行き来するので、安全に歩けない。・歌津大橋の迂回ルートでは対向車が見えないところがあるので危ない。・道路にコンビニの袋や缶などのごみが落ちていたりするところもある。
高校生	<ul style="list-style-type: none">・散歩コースも無くなり、外に出て歩く機会も少なく、他の人と顔を合わす機会も減った。・交通の便が悪くなった。BRTが走るようになっていろいろな場所に行けるようになったし、佐沼まで町民バスが走っているのはお年寄りにも良いが、渋滞もある。・排気ガスや土埃が多く、自転車やバイクでの移動が危ない。

iii) 復興事業で自然が減っている

小学生	<ul style="list-style-type: none">・ほとんどの家が高台に移ったので、防波堤は要らないと思う。・家を作るのに集中しすぎて森が減っている。・木を切っているのだから、動物が少なくなっている。動物が家や学校に降りてくることもある。
中学生	<ul style="list-style-type: none">・土が盛られてしまい、景観が悪くなった。せっかく緑が多い町なのに、道路から海や自然が見えづらくなってしまっている。・住宅をつくる工事が行われており、山の木が切られ、自然が失われている。
高校生	<ul style="list-style-type: none">・工事で山が削られ、土の茶色ばかり目に入る。自然豊かな町で花や虫を見て育ってきたのに、今の子供達はそれが出来ない。・以前の町のきれいな空気、緑、環境が無くなってしまわないかと不安。

iv) 子どもが遊んだり勉強したりする場が少ない

小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・公園など遊ぶ所が少ない、遊具が少ない。 ・思い切りボールを蹴りたい時があるので、遊ぶところがほしい。
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・運動施設が減っている。ボールで遊ぶことができない。子どもたちの運動能力が下がってしまうのが心配である。 ・仮設住宅には駐車場しかなく、集会所は高齢者が使っているので利用できない。家が密集しているので、家の中でも騒げない。
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな子供達がお兄ちゃんやお姉ちゃんと遊ぶ経験が無い。 ・今の子供達はカードゲームでしか遊べない。以前はカードゲームだけでなく、キャッチボールやキックベースをしたり、ブランコも壊れるくらいの勢いでこいで遊んだ。 ・町の図書館に行って本を借りていたが、今は学校の図書室しかない。自分は時々絵本を読みたくなるが、学校の図書室には絵本は置いてない。 ・中高生が勉強する場所は学校しかない。仮設住宅の中は勉強する環境ではない。

v) その他

小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・ガレキがまだ少し残っていて危ない所がある。 ・観光地があまり無い。
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・宿泊施設が少なく、観光客も日帰りで帰ってしまう。 ・震災前は家を出たらすぐに家があるような環境であったが、震災後は家が近くになくなってしまい、人が来てくれない。 ・観光名所がない（震災以前から）。
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・仮設住宅だと声が聞こえてうるさい。ゆっくり寝たいと思ってもできない。

③ 将来の町について

i) 明るく賑やかで活気のあるまち

小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・とても賑わい、笑顔の絶えない町。 ・今住んでいる人が集まれるように、お店がいっぱいできて、にぎやかなまち。 ・伝統的な店があり、面白い町。 ・観光地になって、皆が来る賑やかな町になって欲しい。 ・他市や他県の人々が驚くような町にして、賑やかな町にしたい。 ・水族館や観光客が来られるところがあるまちにしたい。 ・花火大会をより面白く、より大きな行事にし、みんなで楽しく話せるような場にしてほしい。
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・人口が戻り、多くの観光客で賑わう町になってほしい。観光名所や宿泊施設を増やすことで、それが実現できると思う。 ・震災後、今まで町にいた人が町外へ出て行ってしまっているの、町へまた戻ってきてもらいたい。 ・国内外に自慢できるようにしたい。 ・明るく活気のある町にしたい。震災で亡くなられた方の気持ちを明るくしたい。 ・町内には神割崎、歌津の魚竜化石、入谷の巨石、金の採掘、血の池等の伝承があるので、これらをもっとPRしていけば、観光客が来ると思う。

ii) 自然と共存できるまち

小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・機械などをあまり使わず、環境に良いものを使う町にしたい。自然のものを使うことで、海や山を守りたい。 ・今までのように新鮮な空気がいっぱいの自然なままが良い。 ・施設がいっぱいあり、自然もいっぱいある穏やかな町がいい。
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・活気ある町にするために自然を壊すのではなく、自然でさらに活気ある町にしてほしい。 ・小さいときは山や川で遊び、自然については楽しい思い出しかないなので、これから生まれてくる子どもたちにも自然を味わってほしい。 ・自然と人が互いに関わり合うまちにしたい。 ・観光客にも自然をたくさん見てもらいたい。体験等で海や山を知ってほしい。 ・嵩上げしても海が見える町になってほしい。海は町にとって大事な要素である。 ・海産物だけでなく、山も人も素晴らしいので、それをアピールしたい。海産物を取っている写真を見せたり、今まで知らなかった歌津を見せたい。
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・無くなった自然を以前の南三陸町よりもさらに取り戻したい。そのために、山や海のゴミ拾いのボランティア活動や、植樹や花を植える活動ができればいい。 ・復興で水もきれいになったらいいと思う。

iii) 震災前の良さを受け継ぐまち、震災前よりも住みやすいまち

小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・津波が届かない高いところにある、平和な町。
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・工事が落ち着いて静かな町になってほしい。昔は比較的静かな町だった。 ・観光客には震災復興としてではなく、復興した後の南三陸町を見てもらいたい。 ・今がスタートなのではなく、震災前からスタートであると思っている。震災前を上回るには、町の自然を大事にしながら取り組む必要がある。 ・以前のように商店が並び、景色を眺められるようにしたい。
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・単に元の姿を取り戻すのではなく、より住みやすいまちづくりをしたい。 ・昔の思い出や町の風景が戻り、町を出た人がまた戻ってきてくれるといい。 ・復興が進むと新しい遊び場が出来ると期待している。 ・震災後に出来た交流関係や自分の中に根づいたものを、復興に繋げていきたい。 ・復興で町が変わりすぎるのが怖い。以前からの町の良さを継いでいくのは良い。 ・コミュニティの場をもっと作るようにすれば繋がりが強くなると思う。 ・都会ぶらない南三陸町が好きだ。復興が終わった後に南三陸町が都会になったら、皆も戻ってきづらと思う。皆が帰ってきやすい町であればいいと思う。

iv) その他

小学生	<ul style="list-style-type: none"> ・田東山をパワースポットにする。 ・将来、漁師になりたい。
中学生	<ul style="list-style-type: none"> ・健康を保てるようなまちがいい。少子高齢化が進むので、病院が増えたら良い。 ・月1回程度震災の語り部をするなど、観光客やボランティアに対して震災を風化させないように広め、災害の時も一人でも多く生きられるようにしてほしい。 ・オクトパス君を売り出したい。ふなっしーのように喋りダンスができるといい。
高校生	<ul style="list-style-type: none"> ・役場で開催した「まちどまワークショップ」に参加した。町民の声を直接聞いて町を良くしようという姿勢は、震災が起きた町ならではの取組でとても良い。 ・海の良さ、町の良さ、人の良さをもっと強くするため何をすれば良いのか、何を建てれば良いのか等を考えながら取り組んでいくことが大事だと思う。

◇総合計画改定に伴う団体ヒアリング結果について

1. 団体ヒアリングの概要

(1) ヒアリングの目的

- ・基本計画のリーディングプロジェクトに盛り込むべき取組、各団体が取り組めること等についてうかがい、その結果を具体的な取組内容や取組の主体を検討する際の材料として活用する。

(2) ヒアリングの概要

- ・ヒアリング実施期間：平成 27 年 8 月 20 日 (木) ～8 月 27 日 (木)
- ・対象：10 団体

(3) ヒアリングの質問項目

- ①各プロジェクトについて、各団体で実施または参加できる取組
- ②各プロジェクトの取組を実施するために必要な町の協力や支援
- ③その他、リーディングプロジェクトを推進するために必要と考えられる取組

など

2. プロジェクトごとの意見等

LP-1 地域文化の学習プロジェクト

団体名	意見等
南三陸町観光協会	・町外向けに防災の体験学習プログラムを提供しており、町の人に講師役を担ってもらっている。町民が観光に積極的に協力してくれる点は他地域にない魅力である。
南三陸町公民館	・町内の団体のうち、伝統文化の担い手がいなくなり伝承が困難になっている団体が半分程度あった。また担い手がいても道具の整備への支援が必要な状況である。 ・自然災害への対応は、災害の種類、発生時刻、曜日等によって異なる。地域の人はそのことを頭で理解しているが、学校ではそのような想定をした訓練は難しい。
宮城県漁業協同組合志津川支所	・町内には様々な食材があるので、学校給食に南三陸産の食材を使ってほしい。 ・総合学習の一環で、食べ物がどうやってできているかを学んでほしい。
南三陸町復興推進ネットワーク	・「わらすこ探検隊」の活動を通じて、この町に暮らす人が普通に行っていることを次世代に継承したい。以前は集落の高齢者から学べたが、核家族化やスクールバスの導入等で学べなくなったので、その役割を担いたい。 ・町の高齢者は一人で様々なことができるが、現在は分業制でスキルが縦割りになっている。それを再び統合し、高度な技術がなくても暮らしていけることを伝えたい。 ・防災力を身につけるには、祖父母と共に暮らし、自然から学び、総合力を鍛えることが近道となる。「生き抜く力」は、町民が当たり前持っているべきものである。
南三陸町PTA連合会	・水戸辺地区に伝わる鹿踊りを志津川中学校の生徒が練習、披露している。また大森創作太鼓も行政区の枠を超えて担い手が集まっている。伝統行事に対しては「各地区で取り組むもの」といった意識を持たれているが、各地区で担い手がいなくなる前に手を打つ必要がある。今のうちに町民から継承したい伝統文化を募集し、記録に残しておく必要がある。 ・防災教育は小学校 1 年生から実施されており、中学生では住民の手伝い、高齢者の救出、物資の運搬などを行えるようにしている。子どもたちに「自分がリーダーにならなければ」という意識が芽生えている。

LP-2 多様なコミュニティの再構築プロジェクト

団体名	意見等
南三陸町観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・「まちなか大学」で、町民が地域で学び、学んだことを活かして来訪者との交流を行っている。この活動により、異なる行政区の町民同士のつながりも生まれている。 ・町の情報と観光協会の情報を共有し、若い人が活動に参加するきっかけをつくりたい。
南三陸森林組合	<ul style="list-style-type: none"> ・町内の森林で企業の研修を受け入れているが、その依頼者から、地域の方に話を聴きたいという依頼がある。各地域に講師となる人が育つと良い。
南三陸町公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・行政区が再編されれば、町民にそれぞれ役職が割り振られ、役職ごとに研修を行うことで、人づくりが進み、地域文化の発展に向けた活動も進むと思う。 ・公民館ができれば、町民運動会も始められる。町民運動会は最も良いコミュニティ活動の場である。地域全体で盛り上がり、情報交換の場にもなる。若手が体育部長として活動することで、若手の人づくりにもつながる。 ・子どもから高齢者まで、それぞれの世代にあった学習活動が行われることで、様々な交流が生まれ、自主的なまちづくりにつながる。その意欲を生み出すための支援を町が行う必要がある。
南三陸商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの再構築のために、地域の人を楽しめるイベント等により、地域の絆、つながりを深めていくことが必要である。
南三陸町社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・「ほっとバンク」により、地元の人が地元を支える仕組みを作った。ボランティアではなく、「おこづかいをもらう」ということを通じた支え合いを実現したい。 ・高齢者が元気で暮らし続けるために、地域福祉の活動に参加してもらい、医療依存度の低下に努めていくことが重要である。 ・コミュニティが変わることについて、「慣れない人と組む」と考えるのではなく、「仲間づくりのきっかけ」と捉えることもできる。
南三陸町復興推進ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・目的型コミュニティの参加者はどこかの地域コミュニティに属している。目的型コミュニティの活動により地域型コミュニティの活性化につなげられないかと考えている。 ・今の若年層は、地域で暮らすためのスキルを一通り持っているわけではない。今後は、「この人に頼めば何とかなる」というリーダーではなく、複雑な社会に対応する力のあるリーダーが地域社会で求められるようになると思う。 ・コミュニティが成り立つには、インパクトのあることではなく、「つい気になってしまう」「意識を取られる」という状態をつくることが重要と考える。 ・町内のNPOについては、情報や人材の不足が課題となっているので、町内で常時共有、トレードできる仕組みづくりが必要と考えている。
南三陸町PTA連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・高台移転が完了すれば、地区のリーダーを中心にコミュニティの体制構築が進んでいくことが期待される。 ・地域の人々が集まれる場所が必要。昔は地域で様々なイベントが行われたが、現在は実施されていない。

LP-3 交流人口の増加プロジェクト

団体名	意見等
南三陸町観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・自然・食に加え、それを提供する人との出会いをリピーターの獲得につなげたいと考えている。 ・南三陸応援団を創設し、福祉と観光の両分野で町のファンづくり、情報提供を行っている。東京にいながら今の町の状況を知れた、今度南三陸町に行ってみようといった声をいただいた。今後、町を訪れたい人、東京にいながら町に関わりたい人等、一人ひとりのニーズを把握して対応していく必要がある。 ・町の魅力そのものは他地域と似ているかも知れないので、魅力の編集、発信の仕方が重要である。
南三陸森林組合	<ul style="list-style-type: none"> ・都市にある企業に森を貸したり、企業から森を活用した研修を受け入れたりという事業を、一つの収益事業として展開している。 ・中小企業でも本町で研修を行え、かつ何度も来ていただけるよう、安く滞在できる宿泊施設の整備が必要である。
南三陸農業協同組合志津川支店	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で離ればなれになった心を、イベントや販売会等を通じて一つにまとめていく必要がある。 ・三陸道の延伸に伴い登米パーキングエリアに産直施設が整備されるようなので、本町でも同様の施設を整備し、農産物、林産物、海産物等をセットで販売できないか。
南三陸町公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの支援者に対し、お礼や近況報告のはがきを送れないか。いかに町のファンを逃さないかが重要である。
南三陸商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・今は高校生の修学旅行による来町も多いが、今後は震災や震災復興が注目されなくなることを見据え、交流人口を増やすためのプログラムの構築を進める必要がある。
南三陸町社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・被災地の先進的な取組をPRし、視察に来てもらうことで、「被災地」を「先進地」に変えていきたい。視察が増えれば観光需要も増える。 ・地元の人が集えるような場所であれば観光客も集える。観光振興のために立派な建物を建てるのではなく、中身が重要である。 ・企業は被災地への支援を行うことで、研修を通じた社員のモチベーションアップ、企業のイメージアップを図れるメリットがある。町にとっても来訪してもらうことにメリットがある。
宮城県漁業協同組合志津川支所	<ul style="list-style-type: none"> ・漁業体験を震災以前から行っている。漁業体験は命に関わることであり万全の受入体制が必要である。県内で本町ほど体制が整っている場所は少ないのではないか。 ・子どもに漁業体験をしてもらい、お土産を持って帰ってもらうことで、子の親にも漁業に興味を持ってもらうことができる。

LP-4 定住人口の増加プロジェクト

団体名	意見等
南三陸町観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流人口の増加により地域の経済効果が生まれ、町に残ろうと思ってもらふこと、交流をきっかけに町に住んでみたいと思ってもらふことを目指している。 ・ 仕事はあるので、収入に見合った住宅の確保が課題である。まずは、今町内で活動している人に町民になってもらうことが重要である。 ・ 移住しなくても遠方から町に関わり続けてもらう「関係人口」を増加させたい。
南三陸森林組合	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町内への就業希望者が町内で安く住居を確保できるように支援してほしい。
南三陸農業協同組合志津川支店	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外に転出した人が空いている仮設住宅に泊まれるようにすれば、町外に出た人も一時帰町しやすくなるし、体験観光の拠点としても活用されるのではないか。
南三陸町公民館	<ul style="list-style-type: none"> ・ 産婦人科医の確保が必要である。当たり前のものがなければ移住・定住も難しい。
南三陸商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 町外への購買の流出を抑えるために、町に憩いの場、語らいの場を作ることが必要。 ・ 生業の場と暮らしの場が離れるため、交通弱者等のアクセスの確保が必要。
南三陸町PTA連合会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 復興事業が終了した後の保護者の仕事の確保が課題である。仕事がないと子どもを連れて町を出てしまう。また、現在の中学生在がやりたいと思う仕事が町内にないことも問題である。

LP-5 南三陸ブランド構築プロジェクト

団体名	意見等
南三陸町観光協会	<ul style="list-style-type: none"> ・小さな地域で自然のサイクルが成り立っていることが町の特徴であり、その中で生業や暮らしがあるところが町の価値と感じる。今は一人ひとりがばらばらに取り組んでおり、町全体として目指すものが不明確なので、町が本町の価値、ブランドを示し、地域の人がある実現を目指していくことが重要である。但し、方針を統一するのは難しい。
宮城県漁業協同組合歌津支所	<ul style="list-style-type: none"> ・冷凍設備の高度化を検討中であり、これにより季節を問わず海産物を食べてもらうことができるようになる。旬のものはどこでも食べられるので、希少性がない。
南三陸森林組合	<ul style="list-style-type: none"> ・震災後、各産業団体間の結びつきが強まっている。 ・本町の森林の魅力は、海から近いことであり、海と森を一緒に学べることにある。 ・南三陸産材のブランド化に向け、FSC 認証を取得 (予定) したことを活かすために、大手の企業との連携を進めていく必要がある。また認証を得た木材をいかに早く全国にPR するかが課題である。行政としてもPR に加わってほしい。 ・森林を共同所有しているグループ、契約講等との連携を増やしていきたい。
南三陸農業協同組合志津川支店	<ul style="list-style-type: none"> ・本町で産業のブランド化に当たっては「森里海」とのマッチングが鍵となる。震災をきっかけとしたPR をし、町内で生産された液肥や木質ペレットを活用した自然循環型の農業を展開していくことが必要である。 ・農業に従事したいという人はいるが、経営できる人がいない。金銭支援より人材支援をしてほしい。一流企業から人材を派遣してもらえると復興が進む。
南三陸商工会	<ul style="list-style-type: none"> ・ものをつくるだけでなく、販路の確保など売り方、PR の仕方を考える必要がある。 ・ブランド化を行うためには、キラキラ丼のように統一の基準を設ける等により、質の担保を図る必要がある。
南三陸町社会福祉協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・自然環境など、町の地の利を活用して第一次産業が儲けられる取組が必要である。 ・一度買った二度と買わなくなるようなものではなく、何度でも買いに来てもらえるような商品の企画が必要である。 ・設備投資の支援や販路の開拓等、大企業とのつながりを活かしていくことが必要である。 ・行政には、町内で発案、製造された商品等に「お墨付き」を与えて支援してほしい。
宮城県漁業協同組合志津川支所	<ul style="list-style-type: none"> ・漁協直販所で、顔の見える形で魚を販売することで、消費者が求めていることが直接わかり、漁師も「単に魚を獲れば良い」という考え方ではなくなってきた。リピーターが増え、より魚を買ってもらえるようになれば、後継者の確保にもつながる。 ・一部の事業者は漁協のみならず農協や森林組合にも加入している。この町では森の栄養分で牡蠣が育つ等、山、川、海につながりがある。農林水産業をまとめてPR できる町は少ないと考えるので、組合間の連携強化を行政主導で取り組めないか。
南三陸町復興推進ネットワーク	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に残る寄付の文化を価値、エネルギー、お金の換えて、地域内で経済を回す仕組みを成り立たせていきたい。 ・商品を売るだけでは他地域に勝てないので、資金調達と組み合わせて販売するなど、工夫して価値を高めたい。

